

限られたデータに基づく水産資源や生態系の評価と漁業の管理

【企画主旨】

水産資源の持続的な利用や生態系の保全に関する研究ニーズは増大しており、より多くの魚種や生態系に対する評価や管理が求められるようになっていきます。しかし、漁業はいつまでも拡大基調にある訳ではなく、限られた予算や人員を活用して、調査・モニタリング・評価等を持続させるを得ません。このような状況においては、地域の漁業者と管理者、科学者が自主的・協働的な枠組みを構築し、利用と管理を継続的に実践することが大切です。また、枠組みの構築や実践には、林業など他産業の取り組みも参考になるでしょう。

そこで本ワークショップでは水試、水研、大学等の研究者が直面している資源研究、生態系研究の課題について情報交換を行い、水産資源の持続的な利用と管理枠組みの構築のために何が出来るか、一緒に考えたいと思います。本WSの第一の目的は自由闊達な議論、意見交換です。発表される方もされない方も、お気軽にご参加ください。

【開催日時・場所】

2014年9月22日 13:20～23日 12:30
リファレンス博多駅東ビル5階会議室(V-4)
〒812-0013 福岡県福岡市博多駅東1-16-14
TEL 092-432-0058 <http://www.re-rental.com/ekihigashi/access/>

【コンビーナー】

清田雅史(国際水研) kiyo@affrc.go.jp 045-788-7505
米崎史郎(国際水研) yonez@affrc.go.jp 045-788-7501
亘 真吾(中央水研) swatari@affrc.go.jp 045-788-7635

【会費】

参加費 無料, 懇親会費 実費 (参加希望者は上記コンビーナーまでご連絡下さい)

【日程・議事次第】

9月22日(月) 13:05～受付開始

1) 趣旨説明(13:20～13:30)

清田雅史(国際水研)

《日本と世界の水産資源評価・管理》

2) 資源評価に用いられる管理基準値のレビュー(13:30～13:55)

境 麿(国際水研)

3) 漁業管理規則, 管理戦略評価の現状と問題点 (13:55～14:20)

清藤秀理(国際水研)

4) 破綻したタイセイヨウサバの資源評価と管理のその後(14:20～14:45)

平松一彦(東大大気海洋研)

《休憩》(14:45～14:55)

《限られたデータに基づく資源評価と管理の実践》

- 5) 水産資源としての小型鯨類の評価と管理(14:55～15:20)
金治 佑(国際水研)
- 6) マグロの目でカタクチイワシの資源評価・管理を見てみると…(15:20～15:45)
黒田啓行(西水研)
- 7) 限られたデータを活用した資源管理に向けた取り組み(15:45～16:10)
亘 真吾(中央水研)
- 8) 豊後水道のマアジ資源のデータリミ解析について(16:10～16:35)
中尾拓貴(大分水試)
- 9) ナルトビエイの資源評価(16:35～17:00)
崎山和昭(大分水試)

《利害関係者や社会経済要因を考慮した管理の枠組み構築》

- 10) 資源評価結果をいかに漁業者に伝え自主的管理の実践を促すか?(17:00～17:25)
石谷 誠
- 11) 流通や生態系を含めた漁業操業モデルの構築(17:25～17:50)
田丸 修(水工研)

懇親会(18:30～, 会場未定)

9月23日(火)

- 12) 2015年2月の東大大気海洋研シンポに向けたディスカッション(9:20～10:20)
 - ・開催主旨と全体構成
 - ・発表者と講演内容
 - ・プロシーディングスの刊行

《休憩》(10:20～10:30)

《生態系を考慮した漁業管理に向けて》

- 13) 過去と現在における東シナ海底魚群集の空間的な構造の変化(10:30～10:55)
川内陽平(西水研)
- 14) 我が国周辺の底曳き網漁業の影響評価の試み(10:55～11:20)
田中寛繁(北水研)
- 15) 公海トロール漁業と冷水性サンゴ等脆弱生態系をめぐる国際管理の動き(11:20～11:45)
宮本麻衣(国際水研)
- 16) 海と陸のエコシステムマネジメント:生態系指標を用いた順応的管理(11:45～12:10)
清田雅史(国際水研)

総合討論・閉会の辞(～12:30)

[注:上記演題は暫定的なもので, 当日変更される可能性があります。修正等はコンビーナー迄お知らせください]